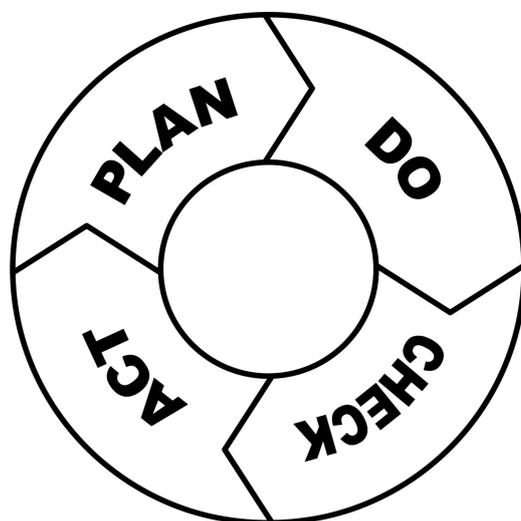


令和5年度後期

授業に関する自己点検評価シート



令和6(2024)年10月

函館大谷短期大学 F D 委員会

令和5年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	保育原理Ⅱ	
講義区分・開講期	講義 ・ 演習	前期 ・ 後期 ・ 通年
担当者名	藤村 敦	
PLAN 目標の設定 授業の方法 ↓	<p>保育所保育指針における保育の基本，保育の目標と方法に焦点をあて，その内容について理解を深めることを目標の中心に据え，その理解が進むよう，他の講義との関連性について話題にしたり，定着を確認する小テスト（2回）や学習内容を保育場面に当てはめる演習を行ったりした。</p>	
DO 目標に基づく 教育方法の実践 ↓	<p>講義で扱う保育の基本，目標と方法等についての理解が深まるよう，小テストを2回行った。テストを行う際にはテストの範囲を限定し，深く学習しやすいよう配慮した。テストを行った次の講義では，理解の度合いについてフィードバックを行い，次のテストへの意欲付けを図った。講義の後半には学習した内容についてさらに理解を深めるために，実際の保育場面に当てはめて考える演習も行った。</p>	
CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート ↓	<p>アンケートの結果，総合的な満足度は平均4.89であり，昨年度同様比較的高い数値であると考えられた。また，授業内容についても平均4.87，授業の進め方についても平均4.87という数値であり，総合評価と類似した傾向であった。このことから，講義中に設けられた演習やそのフィードバック，2回の小テスト及びそのフィードバックは適切であったと考えられる。到達目標の達成については，平均4.67であり，目標の意識のさせ方には課題があると思われ，これには授業の出席状況とも関連があるとも思われた。</p>	
ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し	<p>今後も，得た知識を基にして実際の保育場面に当てはめて考える演習を効果的に行うとともに，学生が必要感をもって学習を進めていく事ができるような演習課題づくりを行っていく必要がある。また，演習課題に関する達成感が重要であると考えられることから，達成感が得られるような丁寧なフィードバックを心がけていきたい。</p>	

令和5年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	経営学入門	
講義区分・開講期	講義	後期
担当者名	伊藤好一	
PLAN 目標の設定 授業の方法 ↓	<p>本講義では、組織・企業に関する基礎知識や様々な経営理論、近年の経営環境の課題とその対応について説明する。そして、組織・企業の特徴についての理解を深めつつ、基礎的な経営理論の修得および近年の経営課題に対する自分なりの考えを持つことを目指す。主にパワーポイントを用いた講義形式で行う。</p>	
DO 目標に基づく 教育方法の実践 ↓	<p>初めに、経営学の理論を時代の経過と合わせて紹介し、経営学の各理論の内容だけではなく、経営学の潮流を理解できるような講義を行った。毎回の講義を様々な“問い”からはじめ、学生たちが主体的に“答え”を得ていくような流れを意識して講義を構成、展開した。毎回の講義でリアクションペーパーを配布し、意見や質問を積極的に集め、次の講義で必ず回答するように努めた。</p>	
CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート ↓	<p>総合的には4.19との評価を得たが、「到達目標の達成」の3.75、「予習・復習の週平均時間」の1.60、「授業への意欲」の3.63、「授業内容への興味関心」の3.94、「学生の理解度等を見ての授業展開」の3.81の5項目については検討する必要があることを確認できた。「意見や質問の出しやすさへの配慮」が4.43と最も高いが、毎回の授業で配布しているリアクションペーパーによる質問収集とそれに対する細やかな返答が効果的であったと考える。また、「教員の話し方や説明の仕方」も4.38だったが、それもリアクションペーパー等の内容を踏まえつつ重点的な説明を心掛けたことが功を奏しているものと考え。「総合的な満足度」は4.19だが、今後もより高い評価を得られるように努めたい。</p>	
ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し	<p>「到達目標の達成」については引き続き学ぶべきポイントなどの説明を細やかに行うとともに適宜イラスト等も活用し、より学生たちの理解が促せるような工夫にも取り組んでいくこととする。「予習・復習の週平均時間」については、より具体的な予習・復習の指示を出し、次回講義時に振り返りを行う時間を設ける。「授業への意欲」や「興味関心」を引き出せるように、なるべく学生の興味ある事例や具体例の選別により力を入れて授業を行いたい。「学生の理解度等を見ての授業展開」については、小テストや授業内課題を取り入れ、確認できる機会を増やしたいと考える。</p>	

令和5年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	オフィスマネージメント	
講義区分・開講期	講義	後期
担当者名	今在景子	
PLAN 目標の設定 授業の方法 ↓	<p>本講義では、組織の中の人間関係を円滑に進めるためのコミュニケーションスキルを学ぶことを目的として授業を構成していた。「なぜこのようなコミュニケーションスキルが有効なのか」ということを心理学的知見から理解できるよう、研究知見を日常生活場面で活かせるよう解説し、「自分だったらどうするか」を常に考えてもらうような授業を実施した。</p>	
DO 目標に基づく 教育方法の実践 ↓	<p>使い慣れたコミュニケーションスキルにとらわれないように、各自のコミュニケーションスキルの幅を広げて、組織の中で実践できるよう毎回、授業の中で課題を課した。課題の内容は、具体的な人間関係場面を想定し、講義の中で解説された知見をどのように活かすかという視点で「自分だったらどのように対応するか」というコミュニケーションや解決策を考えてもらった。</p> <p>また、受講者間で課題を互いに評価し合って客観的な立場からの指摘を受けることで、自分のコミュニケーションの幅を広げてもらえるような実践も行っている。</p>	
CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート ↓	<p>昨年から講義担当者が変わった事から、講義の内容や進行についてガイダンスで丁寧に説明した。講義の欠席者もごく少数で、講義の進行も問題なくシラバスの予定通り実施できた。</p> <p>授業評価アンケートの結果を見ると、授業の内容、授業の進め方について概ね満足してもらっていたようである。特に、「授業の目的の明確さ」を高く評価してもらっており、科目担当教員が想定していた教育目的がきちんと伝わっていたようである。</p>	
ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し	<p>授業評価アンケートの受講態度を引き下げているのは、予習・復習の時間であった。それ以外の目標達成、出席状況、授業への意欲は高く評価されている。</p> <p>授業の内容を日常生活の中でも活かすことを印象付けることはできていたように感じているが、意欲を維持させたまま学習習慣まで引き上げることの難しさも痛感している。</p>	

※非常勤講師の皆様へのご確認になります。

本学ホームページへの掲載について、いずれかに○をおつけください。

(可 ・ 否)

令和5年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	社会学概論	
講義区分・開講期	講義 ・ 演習	前期 ・ 後期 ・ 通年
担当者名	乳井英雄	
PLAN 目標の設定 授業の方法 ↓	社会集団の構成要素としての「人間」を理解できるようになる。また、文化の変遷や科学技術の進展がもたらす社会的価値観の変化について理解できるようになる。 これら为目标として、補助教材やディスカッションを用いて授業を展開する。	
DO 目標に基づく 教育方法の実践 ↓	授業到達目標を基にしたシラバスの授業計画に明記している1回目から15回目までの講義内容を実施し、同じく評価方法に明記した定期試験によって単位の認定を行うこととしていた。 結果として授業計画通りの実施が遂行でき、単位認定については、再試験までの間に受講者全員の単位認定が完了しており、到達目標を達成することができた。 なお、受講生は6名。全員、レポート提出および課題により単位認定となっている。	
CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート ↓	アンケート結果では、設問領域「学生の受講態度」が平均値3.36、「授業内容について」が平均値4.79、「授業の進め方について」が平均値4.88、そして「総合評価」においては4.83という学生評価であった。 設問領域の平均値はともかくとして、設問項目においては「学生自身の予習・復習の時間」が非常に少ないという学生本人の自己評価が多数存在している。 また、前述以外の「授業内容や進め方」の各設問項目の中では「質問の出しやすさへの配慮」が4.67で最も低くなっているが、4.5ポイントを超えていることからすれば、それほど低い評価ではないと考えている。	
ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し	改善ポイントとして、学生に対する予習や復習の充実を検討しなければならない。 また、ごく一部の学生においては「質問しにくい」可能性がある点は排除できないかもしれない、改善策を考える。 なお、受講生が少ないため、アンケート結果のポイント数値はあまり意味を持たない可能性がある。	

令和5年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	障害者福祉論	
講義区分・開講期	講義 ・ 演習	前期 ・ 後期 ・ 通年
担当者名	渡谷能孝	
PLAN 目標の設定 授業の方法 ↓	<p>障がい者福祉に関する制度や歴史的な背景などの基本に触れ、各種障がいに応じた具体的な支援の方法について理解を深める。</p> <p>スライドや配布資料、映像を用いての授業を展開した。</p>	
DO 目標に基づく 教育方法の実践 ↓	<p>障がいのとらえ方についてはICFの観点から理解を深め、できる活動を増やす「参加」に重点を置くことを念頭に、各種障がいの援助方法について知識を深めた。</p> <p>また、障がい者の生活実態や雇用、リハビリテーションやレクリエーションなどといった、多角的な視点から幅広く理解することに努めた。</p>	
CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート ↓	<p>アンケート結果からは、予習、復習の平均時間が極端に低い点が課題として見えてきたため、授業課題等を積極的に取り入れた方法を検討していきたい。</p> <p>総合的に「予習、復習」以外は満足度が非常に高く、授業内容や進め方としては今後も継続して評価を維持できるよう取り組んでいく。</p>	
ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し	<p>予習、または復習について学生が取り組むような仕組み作りが今後の課題。</p>	

令和5年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	教育方法論	
講義区分・開講期	講義 ・ 演習	前期 ・ 後期 ・ 通年
担当者名	乳井英雄	
PLAN 目標の設定 授業の方法 	「教育の方法理論を理解する。また、教育要領を理解した上で、その指導方法を習得して知識・技能を身に付ける」を目標として、講義およびアクティブラーニング等で授業を実施することとしている。	
DO 目標に基づく 教育方法の実践 	授業到達目標を基にしたシラバスの授業計画に明記している1回目から15回目までの講義内容を実施し、同じく評価方法に明記した定期試験によって単位の認定を行うこととしていた。 結果として授業計画通りの実施が遂行でき、単位認定については、再々試験までの間に受講者全員の単位認定が完了しており、到達目標を達成することができた。 なお、定期試験による合格者は28名、再試験および再々試験による合格者は7名となっている。	
CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート 	アンケート結果では、設問領域「学生の受講態度」が平均値3.66、「授業内容について」が平均値4.92、「授業の進め方について」が平均値4.10、そして「総合評価」においては4.64という学生評価であった。 設問領域の平均値はともかくとして、設問項目においては「学生自身の予習・復習の時間」が非常に少ないという学生本人の自己評価が多数存在している。 また、前述以外の各設問項目の中では「教材や機器の使用」が4.47で最も低くなっている。 後期になり、講義のスタイルにも慣れてきたことから、全体として評価は高かったようである。	
ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し	改善ポイントとして、学生に対する予習や復習の充実と教材の工夫を検討しなければならない点と、授業中における質問の出させ方をさらに改善しなければならない点を挙げておく。	

令和5年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	幼児理解の理論	
講義区分・開講期	講義 ・ 演習	前期 ・ 後期 ・ 通年
担当者名	阿部 千春	
PLAN 目標の設定 授業の方法 ↳	<p>幼児の発達を理解し、個々の発達程度の違いや心の葛藤などを観察から捉える理論と技法を学ぶとともに、保護者に対する対応等を習得することを目的とする。幼児の理解や対応に生かせる心理学やカウンセリングの理論と技法についての基礎的な知識を習得することをめざす。教科書と講義資料を用い、講義形式で行う。授業内で行う試験の受験が単位認定の必須条件となる。</p>	
DO 目標に基づく 教育方法の実践 ↳	<p>本講義では、適応論、カウンセリングの基礎理論と技法について、さまざまな演習を通して、相談を受ける側として大切なカウンセリング・スキルを学ぶものであった。保育・幼児教育の現場をはじめ、日常生活の中でも使える理論や技法を扱った授業を行った。事例を多く取り上げることで、学生の理解につなげるようにした。心理学やカウンセリングに関するカタカナの専門用語が多いため、重要な用語について、複数回取り上げたり、教員が作成した練習問題やワークブックを行う時間をとり、定着につなげるように努めた。</p>	
CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート ↳	<p>感染症も落ち着いてきているとはいえ、今年度も対策をとりながらできる範囲で発表する機会を設けたが、自分と異なる考えや価値観を持った他の学生から学ぼうとする姿勢が感想カードからも伺えた。また、講義で学んだ基本的な知識や技法を、今後の実習等での子どもや保護者などのかかわりや日常での友人や家族、アルバイト先の人間関係で役立てたいと記入する学生も多くみられた。（「新しい知識や技能の修得」）また、この授業では、対人関係にかかわる内容が多いため、学生自身、自己を見つめたり、日頃感じている友人や家族などのかかわりについて見つめ直すよい機会となったことが伺えた。それがまた授業への意欲にもつながったようである（「授業への意欲」）。しかしながら、この授業は講義形式とはいえ、学生たちにとっては自分の意見や質問を述べる場が少なかったといえる。（「意見や質問の出しやすさ」）</p> <p>今年度は、ピアヘルパーを受験した1年生が19名（うち、合格者12名）であったが、試験や試験対策学習会に向けての熱心に取り組む学生が多かった。</p>	
ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し	<p>○この授業に関しては講義形式ではあるものの、学んだ内容についての理解を深める、思考の交流をするための演習を感染症対策をとりながら工夫して実施したい。</p> <p>○専門的知識・技術の向上ため、資格取得を引き続き推奨する。</p>	

令和5年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	こどもの健康と遊び	
講義区分・開講期	講義 ・ 演習	前期 ・ 後期 ・ 通年
担当者名	池田 隼	
PLAN 目標の設定 授業の方法 <div style="text-align: center;">⇩</div>	運動遊びの計画・実践・評価を行い、実践の評価視点を身につけるとともに、子どもたちが夢中になって遊ぶ環境の設定について実践を通して学ぶことを目的とした。	
DO 目標に基づく 教育方法の実践 <div style="text-align: center;">⇩</div>	運動遊びの計画を立て模擬保育を行った。また、他者の模擬保育を園児役として参加し、模擬保育の評価を行った。さらに、授業内にて質疑応答などアクティブ・ラーニング形式を導入した授業を実施した。	
CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート <div style="text-align: center;">⇩</div>	授業評価において、「Ⅰ. 受講態度」、「Ⅱ. 授業内容について」、「Ⅲ. 授業の進め方について」という3つの項目の中でも、「Ⅰ. 受講態度」は3.97と最も低い値を示していた。「総合的な評価」も含めその他項目は、4.80以上といった値であった。特に授業の出席状況及び予習・復習の週平均時間といった欄の数値が低くなっていた。	
ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し	本授業科目は演習科目であり、実際の授業に出席し、実践を通して学ことが極めて重要な内容となっている。また、演習科目の授業出席状況が低くなれば学習効果が薄れることもあり得る。そのため、次年度に向けては実施内容や授業評価方法等を含め、学生の出席を促すような工夫を取り入れていくことが必要である。目の前の学生の質に応じた対応をとっていきたい。	

※非常勤講師の皆様へのご確認になります。

本学ホームページへの掲載について、いずれかに○をおつけください。

(可 ・ 否)

令和5年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	保育音楽	
講義区分・開講期	講義 ・ 演習	前期 ・ 後期 ・ 通年
担当者名	土谷 育代	
PLAN 目標の設定 授業の方法 	<p>前期の「幼児音楽」での保育者として必要な音楽理論とピアノ演奏を学んだことを踏まえ、子どもの歌のピアノ演奏と弾き歌いを表現豊かに演奏できること、ミュージックベルの奏法を説明でき演奏できること、子どもの歌のコードネームによる伴奏付けと移調奏ができること、手あそびを実践できることを目標として設定した。</p> <p>授業は教科書と配布プリントを用い、演習形式を中心に実践する方法を計画した。</p>	
DO 目標に基づく 教育方法の実践 	<p>第1回から第7回と第9回の授業では子どもの歌のコードネームによる伴奏付けの説明と実践、そして子どもの歌のピアノによる弾き歌いを中心に行った。</p> <p>第8回と第10回から第15回までは手あそびの実践と創作、リトミックなどの音楽活動と子どもの歌のピアノによる弾き歌いを中心に行った。手あそびの実践と創作では学生が主体的に活動するために学生の発表を行った。</p> <p>ピアノによる弾き歌いでは、ML教室で担当教員の演奏と説明を聞き、各自電子ピアノを弾き確認し、担当教員が助言する方法で実践した。</p> <p>シラバスで目標と設定したミュージックベルの演奏は実践せず、リトミックを実践した。</p> <p>コードネームに関する音楽理論のテストを1回、ピアノ演奏と弾き歌いの発表を3回行い、理解の確認を行った。</p>	
CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート 	<p>I. 「授業態度」では、「予習・復習の時間」がI.からIII.の項目の中で最も低く、授業以外でも学習し、授業内容を定着できるように学生に働きかけることが必要だと考える。</p> <p>II. 「授業内容について」はI.からIII.の項目の中で全体的に高かった。「新しい知識や技能の習得」が特に高かったので、今後も知識や技能を習得できる内容を展開できるように工夫したい。</p> <p>III. 「授業の進め方」では「話し方や説明の仕方」が他の項目より低かった。授業の内容が、音楽初心者と音楽経験者が一緒に学ぶ方法なので、両者に理解しやすいように改善したい。</p>	
ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し	<p>予習・復習をするように、授業内で具体的な学習方法を提示する。授業の進め方では、授業の内容をわかりやすく説明することを心掛けたい。</p>	

令和5年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	保育内容総論	
講義区分・開講期	講義 ・ 演習	前期 ・ 後期 ・ 通年
担当者名	村田あきの	
PLAN 目標の設定 授業の方法 	1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 2. 保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体構造を理解する。 3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程につなげて理解する。 4. 保育の多様な展開について具体的に理解する。	
DO 目標に基づく 教育方法の実践 	教科書を丁寧に読み取る作業を促すとともに、実践的な視点を提示し、自らの言葉でまとめる作業をした。 また、重要事項についてはテストにて確認を行った。 さらに、教科書を通して理解した事項を実践につながる取り組みとしてパネルシアターの製作と発表を行った。	
CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート 	授業への出席状況がやや低いものの、モチベーション等は維持できたと考えられる。また実践的な内容だったため、授業時間外での学習も確保でき、到達目標の理解も明確に出来たと考えられる。	
ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し	当該科目の受け持ちが今年度初めてであったこともあり、製作のための時間の確保が十分でなかった学生が数名いた。次年度は、各自で時間管理をしながら作業の見通しを持つことを意識づけるとともに、提出期限を過ぎたときの対応をあらかじめ理解してもらう必要がある。	

令和5年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	中国語会話	
講義区分・開講期	講義 ・ ●演習	前期 ・ ●後期 ・ 通年
担当者名	陳儀萍	
PLAN 目標の設定 授業の方法 ↓	<p>中国語の漢字の音を示すピンイン、特有の四声、基礎的な文法、基本フレーズなどを学ぶことで、簡単な中国語会話を身に着けることが目標です。</p> <p>授業は教科書を用いて、講義と演習形式で行います。</p>	
DO 目標に基づく 教育方法の実践 ↓	<p>授業を受ける前に予習する事と受けた後で復習する事ことです。予習と復習はそれぞれに宿題を出します。そうすることにより、より授業内容の理解が高まり、スムーズな授業になります。</p> <p>文化学習に中国茶と中華料理を授業にいれ、中国文化とのふれあいができます。</p>	
CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート ↓	<p>学生に十分な予習、復習と宿題を要求し、それは方針です。</p>	
ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し	<p>基本的にあまり変わらないと思います。次の年度に学生の様子を見て、それに合わせて授業に行いします。</p> <p>今年度、社会人学生がいたので、授業はよりスムーズに進むことができました。他の学生もよく頑張りました。</p>	

令和5年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	韓国語会話B	
講義区分・開講期	義講・演習	前期・後期・通年
担当者名	金 美敬	
PLAN 目標の設定 授業の方法 ↓	実際に学んだ韓国語を必要な時、特に韓国旅行などで役に立つことを目標とする。 授業の方法は、講義形式で、教科書やworkbookを利用し、学習を行う。また、グーグルことにZoomでの会話練習を行い、実際会話練習をさせる。	
DO 目標に基づく 教育方法の実践 ↓	韓国語での会話練習を通して、韓国語を身につける。workbookを利用し、授業の内容を理解させる。また、授業内の小テストを行い、理解力を確認する。とにかく話す・聞く力をつける。	
CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート ↓	韓国語にもっと興味を持つように、学習環境を作ることが必要だと思う。また、復習や予習や課題などで、積極的に授業に参加させることも必要だと思う。	
ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し	韓国語の学習に関する目標意識を持つように工夫する。予習として教科書での課題を出し、次回講義までに行ってくるようにする。復習は、教科書の問題やプリントなどで学習させる。また、グループを組んで、楽しく参加できる会話中心の授業を行う。演習のやり方を増やす。 こまめに復習をさせる。そのためには、課題を毎回少しずつやらせ、提出するようになる。それに予習もできるように工夫をする。	

令和5年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	情報基礎演習Ⅱ	
講義区分・開講期	講義 ・ ✓演習	前期 ・ ✓後期 ・ 通年
担当者名	三浦久典	
PLAN 目標の設定 授業の方法 ↓	<p>Excelでのデータの集計・分析を行い課題を発見する力や、それに基づいてデータを検証し 具体的な対策を見出せるスキルを身につける。</p> <p>【授業の方法】 テキストに従い必要な技術を解説したうえで、演習課題に取り組む</p>	
DO 目標に基づく 教育方法の実践 ↓	<p>生徒の興味や理解度を確認しながら、優先すべき課題を勘案し授業毎にテキストを準備。実習を通して実務的な操作を実践。講師は見回りながら、生徒のサポートを行う。</p> <p>理解の早い生徒、興味のある生徒は応用した技術を習得できるよう、応用課題を準備し実践できる環境にする。</p>	
CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート ↓	<p>一人一人敬意をもって向き合い、一人一人の理解、進捗に合わせて丁寧に伝えることを意識し授業を行った。 就職後もスキルを磨き続けられるよう、webでの調べ方や書籍に興味を持ってもらう工夫をしたつもりだが、評価結果として、「到達目標の達成」を感じた生徒の割合は若干増えたが、総合的な満足度については前回から0.5ほど下がってしまった。</p> <p>下記の点について改善する必要があると感じた。</p>	
ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し	<p>【授業への意欲】 【授業内容への興味関心】の項目が前回に比べポイントが下がっていた。</p> <p>学ぶ面白みを感じられなかったということなので、あらためて生徒一人一人と真摯に向き合い、どんなことに興味を持っているのか、「こうなりたい」という理想等をうまくヒアリングして、学びへと導いていく仕組みが必要だと感じた。</p> <p>【予習・復習の週平均時間】 家庭でもパソコンに触れる環境が整っていてもポイントが低いのでより改善が必要。 ある程度の負荷は「努力する習慣」や「達成感」にも繋がるので、生徒の反応を見ながら予習・復習を習慣づける仕組みを作る。</p>	

令和5年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	1A 医療管理論・医療秘書実務実務実務 2A 医学一般・医療事務 I	
講義区分・開講期	講義・演習	前期・後期 通年
担当者名	谷川 邦子	
PLAN 目標の設定 授業の方法 ↓	2年間の講義終了後の資格取得 （一般財団法人 日本ビジネス技能検定協会主催 「医療事務（医科）能力検定試験」） 2年生前期までに教科書（医学通信社出版・診療報酬の請求）を修了し、2年後期にはオリジナル資料を活用、また過去問題等を活用していく。	
DO 目標に基づく 教育方法の実践 ↓	資格取得のために過去問題&対策問題集の徹底的な攻略。 また、オリジナル資料（手書きにての1号紙作成等）を活用しながら、試験問題に対応できるように教育していく。	
CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート ↓	時間に限りがあるために、対策問題に取り組む際に、早く授業を進めてしまう傾向があると思っている。 オリジナル資料には計算問題等もあるので、1人1人の生徒をまんべんなく見回りするようにしているが、欠席などがあると、欠席した授業のリカバリーが出来ない現状があるように感じる。生徒には、質問等、分からない箇所は聞いてくれるように積極的に声がけしているが、一部の生徒のみが対応してくれるように感じる。	
ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し	理解がどのくらい、進んでいるのかが、生徒全員の状況を把握出来ていないことを改善していきたい。 小テストも実施しており、その中で自分の知識不足の箇所を把握するように指導しているので、小テストの結果で解答が出来なかった箇所の説明・解説に力を入れていきたい。	

令和5年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	教育課程論	
講義区分・開講期	講義・演習	前期・後期・通年
担当者名	飯田 泰子	
PLAN 目標の設定 授業の方法 ↓	<p>幼児期にふさわしい生活を営むために、幼稚園・保育園・認定こども園における指導計画立案の必要性について学習する。幼児のありのままの姿を受け止め、幼児の発達の実情を見通した計画立案の大切さを感じ取り、幼児期の生活に見通しをもつことの重要性を学んでいくことを目的とする。</p> <p>授業の方法としては、講義が中心であるが、演習も取り入れ、様々な形態の指導計画に触れてみる。</p>	
DO 目標に基づく 教育方法の実践 ↓	<p>教科書の他、授業計画に沿った内容の資料やプリントを用いて講義や演習を行う。また、幼稚園の普段の様子や実践例をできるだけ多く伝え、幼児理解を深めていけるよう心掛けていた。</p> <p>演習内容は、年間行事・日案・週日案等の作成の他、幼児理解を深めるため、事例から子どもの思いや育ちを読み取っていく演習も行う。また、時には数人のグループを作り、意見を出し合いながら、子どもの姿をベースとした指導計画立案の演習も行う。</p>	
CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート ↓	<p>授業振り返りアンケートの結果を見ていると、授業の中で行う演習が中心だったため、予習・復習の時間は少なくなっている。また、授業の出席状況の数字も低くなっているが、全体的に欠席者は少なく、毎回行う演習に学生は熱心に取り組んでいた。</p> <p>それ以外の項目は、概ね学生から評価されていたが、授業の進め方として、こちらから一方的に話をすることが多くなってしまった。しかし、園での遊びや行事の時の子どもの様子等、具体的な事例を伝えた時は、実習に入っていた時のことを思い出し、興味深く聞いていた。</p> <p>提出された演習のプリントで学生の理解度を把握していたが、それ以外に講義の中でも学生の考えを聞いたり、学生同士で意見交換をしたりする等、授業展開の方法を工夫していくことによって、更に学生の理解度を深めることができたのではないかと思う。</p>	
ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し	<p>15回という限られた時間数の中で、教育課程や指導計画の必要性、大切さを学生に伝えていけるよう、講義と演習のバランスを考慮した授業展開の工夫が必要だと思う。また、授業の中で、学生が自分の考えを出しやすい授業展開を考えることも大切だと思う。</p>	

令和5年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名	社会的養護 I	
講義区分・開講期	講義 ・ 演習	前期 ・ 後期 ・ 通年
担当者名	長谷山 哲平	
PLAN 目標の設定 授業の方法 ↓	① 児童領域における社会的養護について、児童の権利や社会全体で養護する意義といった基本的な知識を習得できる ① - 1、教科書を主体とした授業 - 2、DVD等の視聴 - 3、新聞記事や行政開示資料を基にした通達等を活用し分析を行う。 - 4、個人ワーク、グループワーク、演習の実施。	
DO 目標に基づく 教育方法の実践 ↓	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講師による一方的な授業形式ではなく、アクティブラーニングを意識的に取り入れ、演習や個人ワークグループディスカッションを行った。 ・ 授業終了時には、「振り返りシート」へ授業で習得した知識や疑問点、その他質問事項などを記入し提出してもらう。次回以降に振り返りシートの確認を授業はじめに実施したうえで、授業を開始した。 ・ 児童の権利や養護の視点を習得するに必要とされる支援者の視点に必要なキーワードを抜粋し、個人ワークおよび学生による発表などを実施した。 	
CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート ↓	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の評価が低かった項目は、「予習・復習の平均時間」や「授業の出席状況」であった。 ・ 「予習・復習の平均時間」については、課題の提出や副教材の活用などを有効的に行い、学生が興味を持ちさらに深い考察をできるような工夫がさらに必要であると感じた。 ・ 「授業の出席状況」については、コロナ感染やインフルエンザの蔓延等、かならずしも学生個人よる理由が大きいわけではなかったため、一部やむを得ない状況もあった。 	
ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続してのアクティブラーニングを意識した講義。 ・ 課題の提出物について工夫を行う復習等の時間を確保。 	

令和5年度 授業に関する自己点検評価シート

担当科目名 講義区分・開講期	子どもの保健	
	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 ・ 演習	前期 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 後期 ・ 通年
担当者名	小杉 あゆみ	
PLAN 目標の設定 授業の方法 ⇩	1. 本講義では、子どもの誕生から幼児期までの心身の成長過程を理解し、身体と精神の発達に関わる保育者としての役割を学ぶことを目標とする。 2. 講義を中心としグループワーク演習を組み合わせる。 3. 授業終了ごとに毎回、小テストを実施することで、復習する。	
DO 目標に基づく 教育方法の実践 ⇩	1. 单元ごとに、PowerPointを使用した講義を実施した。 2. 事例検討が必要なものについては、動画視聴を通して個人ワークをすることで、知識を深めた。（今年度は感染症対策のため、グループワークから個人ワークへ変更） 3. 授業後半に、小テストを実施。授業後に解答を配布し自己採点することで復習を促した。	
CHECK 自己点検・評価 授業評価アンケート ⇩	1. 「総合的評価」では4.81とおおむね達成できた。 2. 「予習・復習の週平均時間」のみ、1.70と低い。 小テストの実施については、解答も講師が作成し配布しているため、積極的な自己学習機会につながらなかったと考える。 3. 感染症対策のため、個人ワークが多くなり、学生同士の検討や意見交換の機会がなかったため、予習意欲につながらなかったと評価する。	
ACTION 次年度に向けての 改善策・見直し	1. 小テストの実施、解答、採点についての方法を再検討することで復習時間を確保したい。 2. 今年度は感染症対策で個人ワークとしたが、来年度以降は、講義内で学生が積極的にアウトプットする機会を講義内で設けることで、予習による自己学習意欲を高めるよう工夫する。	